

まちづくりプロジェクトに参加して！

まちづくりプロジェクトメンバー 黒田 綾

シーンのまちづくり事業は「女性の視点からみたまちづくり」、すなわち公的な政策にジェンダーの視点をいかに持ち込むか、そんな考えのもとで始まったものだとは私は認識してまず。これまで中川さんの講演と数回のミーティングがありました。

私がなぜこの事業に興味を持ったのか。自分が住んでいる場所が居心地いいのか、息苦しくて疲れるのかを考えたとき、もちろん居心地よく暮らしたい、誰もがそう思っているはず。しかし現実には女性や、障害者その他、弱い立場の人はもちろんのこと、皆さん市民一人ひとりが、なんらかの居心地の悪さを感じていると、私は思っていました。でも自分ひとりでは何もできませんでした。それでこの事業に参加してみたらか見えるかも、変化が起こるかも、そう感じたからです。

参加してみて私がどうしたら政治に参加できるのか／参加するか、そんな感情が少し芽生ええました。例えば政治家は、「家族は大切です、家族が愛に包まれていて、社会が上手くいくのです、その為に子育て支援をしつかりしていきます、支援は子ども一人につき〇〇」とお金を親に渡すことで支援し、そして家族が上手くいくと思いいこんでいるように感じられます。確かにお金は大切ですが、それがすべてではない、もっと大切なことが、政治の世界にあると私は思います。それならそのことが言える市民になろう、そう感じました。

以前私は男として暮らしてみましたが、女として暮らしてみてもそのことが、今の私は嬉しく思います。弱い部分を知り、それをなんとかかしていきたい、そんな気もちです。

マーサ・ヌスパウムの『性と社会正義』という本に次のような文章があります。

「女は文化に属する。しかし、女たちはいかなる特定の文化にも生まれることを選択したわけではない。また、女たちは…ほかの女たちとともに所属とエンパワメントのコミュニティを形成する機会をはじめとして…さらなる選択肢や機会を持たなければ、実際に自分自身にとつての善としての範囲を支持することを選択しない。」

市民が言いたいことを言える社会にするためには、市民が学びもっと賢くなつていくのがいいと感じました。まずは私たちが学ぼうということで、選挙も近いので、政党のマラエストの主張を聞こうということになりました。一回目は民主党でした。言いたいことはありましたが、今はできるだけ多くの政党のマラエストを聞こうと思つてます。これからのミーティングにぜひ参加してください。何か以前と違う自分に出会えると思えます。